

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	映像リテラシーA1		
科目基礎情報						
開設学科	放送芸術科	コース名		開設期 前期		
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 30時間		
単位数	2単位			授業形態 講義		
教科書/教材	各回 必要に応じてレジュメ・資料を配布する。					
担当教員情報						
担当教員	笹本篤・上遠野順子	実務経験の有無・職種	有 映像制作全般			
学習目的						
この科目を受講する学生は、映像制作やテレビ放送に関する基礎的な知識・技術のノウハウを得ることを目的とする。具体的には、テレビ放送の成り立ちから地デジ化、4K放送、5Gへの技術・視聴環境の変遷や、カメラ・照明・音声などの撮影現場に必要な、色々な知識と基礎的な機材知識の習得を目的とする。前期では主にテレビ放送技術・知識を学び、後期で行う現代の映像制作環境学習への橋渡しとなるように進める。						
到達目標						
この科目では、学生が、日々生活している中で触れている映像（テレビ・WEBなどあらゆる媒体）がどのように現在の形になったのかを知ることで、現在の技術が多くの技術者や映像制作者のノウハウの蓄積で今に至ることを理解することが目標とする。放送（映像）業界においてどのような仕事が存在するのか自身がどういった分野に興味・関心があるのかを把握するきっかけとなることを期待している。						
教育方法等						
授業概要	この授業では、教員は黒板に板書きし、学生にノートに書かせる。書くことで脳を動かせ、必要箇所をまとめる習慣をつける。また、全ての技術はそこに至る目的や経緯がある。「なぜ そうなったのか？」を当時の時代背景を意識し、考えさせるように質疑を繰り返して、知識として残るように授業を進める。					
注意点	ノートは各自用意し、必ず授業内容のメモをとる。現在の放送（映像）業界のリアルタイムな状況も考慮して授業を展開するため、自身でも映像視聴環境を今一度見つめ直し、身近な物事として考えてほしい。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。					
評価方法	種別	割合	備 考			
	試験	80%	試験と課題を総合的に評価する			
	レポート	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する			
授業計画（1回～15回）						
回	授業内容	各回の到達目標				
1回	放送業界って何？①	テレビ放送はどのような作業工程から作られているか、ワード理解・フローを理解する				
2回	放送業界って何？②	テレビ放送が成立する仕組みについて知る（視聴率と広告収入、NHKと民放の違い）				
3回	テレビ放送の成り立ち①	テレビが作られた時代（1950年代）から地デジ化（2012年）までの時代・技術背景の知識習得				
4回	テレビ放送の成り立ち②	地デジ化から現在（2019年）までの時代・技術背景と視聴環境変化の知識習得				
5回	映像はどのように映し出されるか①	プラウン管、プラズマ、液晶、有機ELなど、各テレビの違いについて知識習得				
6回	映像はどのように映し出されるか②	生き残ったテレビと生産中止になったテレビの経緯について知識習得				
7回	放送規格、インターレース・プログレッシブ	テレビ放送にあたり、技術的なワード解説と技術成立の経緯理解				
8回	放送規格、タイムコード・DF/NDF	テレビ放送にあたり、技術的なワード解説と技術成立の経緯理解				
9回	映像を作る色（光の3原色）①	光の3原色（赤・青・緑）の理解と、放送での色の規格知識習得				
10回	映像を作る色（光の3原色）②	映像に関連するカラーバーや波形の見方を理解する				
11回	HDR(ハイダイナミックレンジ)技術とは？①	映像収録時の色の幅について、現在広がりつつあるHDR技術のワード理解				
12回	HDR(ハイダイナミックレンジ)技術とは？②	HDR技術で撮影された映像の現像について（カラーグレーディング・カラリスト）の理解・知識習得				
13回	音声技術（撮影における音とは？）	映像に使われる音の役割と収録方法について理解する				
14回	音声技術（音の扱い方）	音を扱う上の注意点や、人の心理に働く音についての知識を習得する				
15回	振り返り・まとめ	前期の総復習を行い、全体のまとめをする				